

## 平成30年度 上溝地区まちづくり懇談会結果報告

- 1 日 時 平成30年11月12日(月)午後7時から午後8時20分まで
- 2 場 所 上溝公民館大会議室
- 3 市側出席者 下仲副市長、小山中央区長、樋口環境共生部長、荻野まちづくり計画部長、鈴木中央区副区長、樋口市民局次長
- 4 出席委員等 20人
- 5 傍聴者 4人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	小田急多摩線の延伸とJR相模線の複線化について
概要	<p>小田急多摩線の延伸やJR相模線の複線化については、上溝地区だけではなく、関係する他の地区のまちづくりにとっても大変重要な事業であると考えており、これまでもまちづくり懇談会で取り上げているテーマである。</p> <p>計画についての市の取組状況と、地区での取組について懇談したい。</p>
課題事項1	小田急多摩線の延伸について
概要	<p>上溝地区では、「小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会」が中心となり、講演会の開催や、上溝夏祭りにおけるパレードの実施など、地区住民に対する様々な周知・啓発活動を行っている。</p> <p>昨年のまちづくり懇談会以降の取組としては、昨年10月から本年1月にかけて、5回にわたり「上溝の歴史を知り、未来を考える講座」を開催し、その過程の中で、戦前の鉄道計画である「相武電気鉄道」に関する貴重な資料が発見された。その内容からは、上溝はもとより、田名・愛川方面への鉄道の敷設が必要な事業であることを再確認でき、活動推進者として非常に勇気づけられたところである。</p> <p>本年7月には横断幕やフラッグ、のぼり旗を追加で作成し、地区内の目立つところに掲出するとともに、10月中旬の「上溝レクリエーション大会」においては、雨天により開催することができなかったが、小田急多摩線をイメージして考案した障害物競走「おだ・たまレース」に地区内の小中学生約120名が参加を予定するなど、地域一体となった一層の取組を進めている。</p> <p>一方、市では平成28年8月に設置された「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」において、利便性の向上など収支採算性の確保に向けた検討を行っているものと承知している。</p> <p>そこで、関係者会議での現在の検討状況について何うとともに、改めて、上溝駅までの延伸の実現が上溝や市内外の周辺地域に与える効果について何う。</p> <p>また、上溝地区としても、周知・啓発活動だけではない新たな取組を行っていきたいと考えているが、他の先行地域で取り組まれている事例等についてご教示いただきたい。</p>
市の取組等の説明	<p>小田急多摩線の唐木田から上溝までの延伸は、国の交通政策審議会の答申で意義は認められたが、同時に収支採算性等の課題も示された。</p> <p>市では、課題解決に向けて、「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」を設置し、関係者と共に検討を進めている。</p>

	<p>上溝までの延伸が実現されることにより、都心方面とのアクセス利便性の向上が図られ、地域の活性化に繋がる。</p> <p>他住民団体についても啓発活動を主な取組としており、紹介できる事例はないが、地域が一体となってまちづくりを進めることは重要であると考えている。 (都市建設局)</p>
<p>主な質疑等</p>	
<p>質問要旨 (提案者)</p>	<p>平成26年5月に町田市長との間に交わした覚書で、2027年リニア中央新幹線開業までの延伸実現を目指すという目標を掲げているが、その方針は今も変わらないか伺う。</p> <p>小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会の今年度の活動計画には、上溝のまちづくりビジョンの作成と実現への取組を掲げ、上溝商店街振興組合においては、市のアドバイザー制度を活用しながら、商店街の活性化方策を検討し始めた。しかし、当該制度は年2回の活用という条件付であるため、条件が緩和されれば、ビジョン作りも円滑にすすむと思うが、考えについて伺う。</p> <p>上溝までの延伸を具体化するために、まち全体の活性化、駅前広場の機能向上、道路渋滞の解消など、上溝駅を含む周辺地域のまちづくりのビジョンを描くことは必須条件であるが、行政課題が多い中、住民だけでビジョンをつくることは限度がある。懇談の都度、関係する部署の職員と連絡をとり議論を進めていくのは非効率であり、上溝まちづくりセンターへの小田急多摩線延伸上溝駅開設の担当専任職員の配置を要望する。</p>
<p>回答</p>	<p>平成26年5月に、平成39年までの小田急多摩線延伸の実現を目指した取組を進めることなどについて、町田市・相模原市両市で合意し、覚書を結んでおり、目標年次までの開業を目指し、現在検討を進めている。</p> <p>土地利用などを規定する都市計画マスタープランにおいて、上溝地区は、交通の利便性や歴史的背景を生かしながら魅力ある商業地づくりを進めるという位置付けになっており、本市としては、これらの位置づけを踏まえながら、さらに上溝地区のまちづくりを進めていくものと考えている。現在、次の都市計画マスタープランの策定作業も行っているため、それらの内容を踏まえ検討中である。</p> <p>専任職員の配置について、地域の皆様が自主的な取組を進めていただくのが第一と考える。市としては、専門的な知識、経験を持つ専門家を派遣するアドバイザー派遣制度があるので、積極的にお使いいただきたい。(都市建設局)</p>
<p>質問要旨</p>	<p>専門家のアドバイザー制度があるが、年2回ではなく、その都度要請できるような制度に変えていただきたい。また、早めに専任職員も配置していただき、様々な計画や行政課題を解決していきたい。</p>
<p>回答</p>	-

課題事項 2	ＪＲ相模線の複線化について
概 要	<p>小田急多摩線の延伸に向けては、リニア中央新幹線の開業が予定される2027年までの実現を目指した取組を進めることとされているが、上溝地区からリニア中央新幹線新駅が設置される橋本駅へのアクセスには、ＪＲ相模線の利用が便利である。</p> <p>近年、相模線全体としての輸送人員数は増えていると伺っており、上溝駅においても1日あたりの駅乗降人員数は右肩上がりで見られている状況である。これは、リニア中央新幹線新駅の設置だけでなく、沿線の海老名駅周辺まちづくりの進展や、東海道新幹線新駅設置の可能性など、神奈川県を南北に貫く相模線が秘めていたポテンシャルが、いよいよ表面化してきたものと考えられる。</p> <p>相模線の重要性は今後ますます高まっていくものと考えられ、複線化の実現による更なる輸送力の増強が相模原のまちづくりに欠かせないものと言える。</p> <p>市では、沿線市町や関係団体で構成される「相模線複線化等促進期成同盟会」において、相模線の輸送力の増強や利便性向上に向けた様々な取組を行っているものと承知しているが、複線化の実現に向けた現在の市の取組状況について伺う。</p> <p>また、上溝地区としても複線化の実現に向けた機運を醸成するため、利用促進に向けた取組を行っていきたいと考えているが、その具体的な方法や取組についてご教示いただきたい。</p>
市の取組等の説明	<p>相模線については、沿線地域の皆様の生活の交通として重要な役割を担うとともに、リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）が設置される橋本駅周辺と東海道新幹線の新駅誘致に向けた取組が進められている倉見駅周辺をつなぐ交通軸として複線化の重要性が高まっている。</p> <p>相模線複線化等促進期成同盟会において、新たな相模線交通改善プログラムを平成25年度に策定し、ＪＲ東日本に対し輸送力の増強や速達性の向上等、輸送サービスの改善を喫緊の課題とし、複線化の早期実現を要望しているところである。</p> <p>現在、同盟会において、本プログラムにおける各市町の取組状況について確認を行っているところである。</p> <p>沿線の魅力を発信し利用促進を目的に、同盟会では、相模線沿線ハイキング等を実施し、また、同盟会の構成員にＪＲ東日本横浜支社を加えた相模線沿線活性化協議会では、相模線沿線写真コンテストを実施するなど、啓発活動を行っているところである。</p> <p>地域の皆様にも、相模線を自分たちの鉄道として維持し、育てていただいているという意識を持っていただくことが、利用促進に向けた取組として非常に重要ではないかと考えていることから、来街者の増加を図るための地域の観光資源や魅力あるスポットを積極的に発信するとともに、一人でも多くの方に相模線を利用していただくよう、地域の皆様が一丸となってまちづくりに貢献する取組を進めることが必要ではないかと考えている。（都市建設局）</p>

主な質疑等	
質問要旨	横山公園について、老人会のスポーツ大会を開催するなど、公園の使用頻度を増やしていただきたい。
回答	横山公園は非常に集客力があると実感している。先ほどの相模線の沿線ハイキングについても、会場は横山公園であった。横山公園で何かやると、お客様の多くは相模線で来るかと思っている。体育施設についてはスポーツ課という別の部署もあるが、ぜひともこういう実績も含め、今後更に活用できないか検討したい。(都市建設局)

テーマ 2	地域住民が憩い、誇れる公園づくりについて
概要	<p>上溝地区には、鳩川、姥川、道保川の3つの河川が流れ、横山丘陵の緑地など自然にも恵まれており、地域住民にとって憩いの場となっている。</p> <p>都市化や少子高齢化が進行している中で、自然に囲まれ、落ち着いてすごせる公園があることは、今後のまちづくりを進めていくうえでも大変貴重な、地域の誇れる財産であると考えている。</p> <p>そこで、地区内の代表的な公園である上溝さくら公園と道保川公園の充実について懇談したい。</p>
課題事項 1	上溝さくら公園の充実について
概要	<p>上溝さくら公園は、秋から春にかけて桜の開花が楽しめる公園として平成27年3月に開園し、その後、福島県から「はるか桜」が、「尾崎弔堂を全国に発信する会」から「弔堂桜」が寄贈されるなど、開園当初の7種11本から、現在は12種17本に増えたところである。</p> <p>また、当公園は地元の自治会がアダプト管理を行い、地域の盆踊り大会や花見会等のイベント会場としても機能するなど、老若男女を問わず、地域住民の憩いの場・集いの場として親しまれており、さらに本年3月には公園敷地が拡大されたことで更なる充実が期待されている。</p> <p>上溝地区としては、この公園を相模原市のセールスポイントである桜の名所として大きく育てていくことで、市のイメージアップに貢献するとともに、地域住民が誇りに感じ「上溝に長く住み続けたい」と思えるような、地域の財産としていきたいと考えている。</p> <p>そこで、少しでも長い期間、桜が楽しめるような公園となることを目指し、一つでも多くの種類の桜が増えることを願っているが、その方策について懇談したい。</p> <p>例えば、オーナーが市に対して協賛金や寄付金を出資し、市が植樹した苗木に名前やメッセージを掲示できる「桜のオーナー制度」を確立するなど、地域住民に未永く愛着をもって受け継がれる公園づくりに取り組んでいきたいがいかか。</p>
市の取組等の説明	<p>平成27年度の公園整備におきまして7種の桜を植樹し、その後、田中自治会や上溝弔堂桜植樹式実行委員会からの苗木の寄贈を受け、今日に至っている。</p> <p>本年3月には姥川沿いの河川区域480平方メートルを公園区域として拡大し、新たな利活用を研究している。</p> <p>上溝さくら公園の桜を更に充実していくことは、地域の活性化や本市のシティセールスの観点からも有意義であり、拡大区域の利活用の観点からも、積極的に取り組んでいく。</p> <p>実施手法については、地域の皆様のご意見を聞いた上で、市が桜を植樹していくことが考えられる。</p> <p>その他、公益団体の事業である「相模原市さくらさくプロジェクト」と連携を図ることなども考えられる。</p> <p>より良い方策について、地域の皆様のご意見をお聞きしながら進めていく。 (環境経済局)</p>

主な質疑等	
質問要旨 (提案者)	<p>桜のオーナー制度について、苗木などの購入に関する経費についてはオーナーからの寄付金で賄えると考えていたものの、土づくりや支柱の設置など、桜の生育に適した環境については依然として課題であると考えている。</p> <p>先ほどのご回答の中で「市が桜を植樹することも考えられる」との説明があったが、市に桜の植樹をお願いした場合、これらの課題についても対応いただけるのか。また、「さくらさくプロジェクト」との連携を図った場合についても、同様に対応いただけるのか伺う。</p>
回答	<p>新たに植樹をする場所については、河川側の拡大区域を考えているが、その区域は現在アスファルト舗装と砂利敷となっており、桜を植樹するためには土壌を改良する必要がある。その上で、植樹する苗木も3年程度育成したものを使用し、支柱の設置等をしてまいりたいと考えており、できれば今年度中に行いたいと考える。</p> <p>さくらさくプロジェクトとの連携を図った場合についても、土づくり、支柱等の設置については、市で行うことになる。(環境経済局)</p>
質問要旨	<p>今年度中に桜を植えるとのことだが、予算的には問題ないのか伺う。また、オーナー制度の創設など何か地域が一体となることができるような取組をお願いしたい。</p> <p>また、最後の1本を植える際に、地域で植樹式及び花見会をやりたいと考える。</p>
回答	<p>桜の植樹については今年度中に行いたい。オーナー制度については、ほかの市町村の事例なども参考に今後研究していきたい。まずは市で植え、その後の維持管理などについて、地域の協力をいただきたい。植樹の方法などはまちづくり会議などで話をさせていただきながら検討していきたい。(環境経済局)</p>

課題事項 2	道保川公園のホタル保全の取組について
概要	<p>道保川公園は、環境省により「残したい日本の音風景100選」に選ばれるなど、自然を生かした風致公園として年間を通じて市民に親しまれ、利用されている。</p> <p>特に6月には、市のホームページでも紹介されているようにホタルが舞い、多くの見物人が訪れているが、以前に比べてホタルの数が減少しており、将来的には地域住民の楽しみがなくなってしまうのではと大変危惧している。</p> <p>9月上旬には、市の公園課に「ホタルの取組に関する視察会」を企画していただき、緑区佐野川の先行事例について勉強させていただいたところである。</p> <p>そこで、たくさんのホタルが飛び交う道保川公園を取り戻したいと考えているが、その方策について懇談したい。</p>
市の取組等の説明	<p>道保川公園のホタルは、6月の第1土曜日から第3日曜日までの16日間を夜間に一般開放し、多くの来園者に親しまれている。</p> <p>平成8年頃に「相模原の環境をよくする会」の会員企業の協力により、ホタルやカワニナを増やす活動が5年程度行われた経過がある。</p> <p>近年は指定管理者において風致公園としての良好な自然環境を保つための管理運営を行っており、ホタルの飛翔数は期間中の多い日には150匹程度が確認できる。</p> <p>今後は、市においてホタルを増やすための基礎調査や、課題の整理を行い、市や指定管理者、地域の役割を明確にする必要があると考える。</p> <p>例えば、地域や指定管理者には、ボランティアと協働した外来生物の駆除や、専門家に協力をいただきながら餌となるカワニナを増やす取組が考えられる。</p> <p>公園のシンボルであるホタルの保全を関係機関や団体と協力して進めていきたい。(環境経済局)</p>
主な質疑等	
質問要旨 (提案者)	<p>道保川公園について、指定管理者と地域の3者が協働して取組むべき課題だと認識しており、地域活性化事業交付金の活用なども検討しながら、ホタルが繁殖できる環境づくりに取組んでいきたいと考えている。</p> <p>この取組によりホタルが増え、それに伴って市内外から来園者が増えた場合、上溝駅から離れて位置する道保川公園へアクセスするための交通手段の確保が課題になるものとする。</p> <p>上溝駅から道保川公園までのバスが運行できればと思うが、市の考えを伺う。</p>
回答	<p>道保川公園への交通手段については、自家用車や徒歩での利用をご案内しており、駐車場も全部で40数台分しかないの、利用が多い日には混雑している状況である。将来的にホタルの繁殖により来場者が増えた場合には、現在のままでは対応が非常に困難なので、バスの運行や周辺の交通誘導を含めた警備体制の強化を図る必要があると考えられる。提案のあった道保川公園の夜間開放期間のみでも無料のシャトルバスを運行することも一つの方策であると考えているので、今後検討していきたい。(環境経済局)</p>